



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第89号

発行日
令和4年9月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|---|--|
| P-2: 樹木名板維持管理作業①(調査) | P-11: 入浜池補足調査① |
| P-4: 自主観察会(2) 杉之浦旧道 ～世界遺産貢献の森林 公募観察会下見 | P-14: 環境省研修会(歴史)厳島神社 |
| : 公募観察会① 杉之浦旧道 ～世界遺産貢献の森林 | P-15: 自主観察会(3)干潟観察公募観察会下見 : 包ヶ浦海岸清掃(午前)、焼肉懇親会 |
| P-9: PV 会員交流会(広島市植物公園) | P-17: 投稿 ・俳句 編集後記 |

「 ハンゲショウ 」



ハンゲショウ はドクダミ科の多年草で、広島県では準絶滅危惧種に指定されている。シカの多い宮島ではシカが嫌うハンゲショウの純群生が多く、中でも規模が大きい群生が小なきり海岸の後背湿地にある。ハンゲショウの白い花(実際は葉)は暦「半夏生」の頃に咲き、約10日で白色が消え緑葉に変わる。

二十四節気の「夏至」を3つに分けた七十二候の「半夏生」は7月2日から七夕(7月7日)の前日までの5日間となる。名前の由来は薬草の半夏(烏柄杓)が生える頃(半夏生)とか、葉が半分白くなって化粧しているようになる頃(半化粧)とも。

(文・写真 : 河野進 (2022.7.7(木) 小なきり海岸で撮影))

樹木名板維持管理作業①

(調査)

日 時：5月7日(土) 9:00～12:15

場 所：うぐいす歩道、あせび歩道
もみじ歩道

天候：晴れ

行事推進員：森、上杉(裕)

参加者：麻生 猪谷 岩崎 北野 河野

小林(勲) 末原 兎谷 福岡 舛田

三戸 村上(慎) 村上(光) 森

山本(昌) (15名)

この日は、爽やかな好天に恵まれ、作業には「持って来い」の天候になりました。集合場所の棧橋広場で河野部会長から作業の説明があった後、大元公園からのあせび歩道～もみじ歩道の班と棧橋からのうぐいす歩道の班に分かれて、作業に向かいました。

【2班に分かれて棧橋を出発】



大元公園(あせび歩道)に向かう班



棧橋東のうぐいす歩道に向かう班

今回の作業は、①以前から実施してきた作業の取付け済みの名板の状況確認と②新たに追加された作業の新規に名板を取付ける樹木の選定の二つでした。

ここからは、私が参加したうぐいす歩道の班での作業を中心に状況を記載します。

取付け済みの名板の状況確認作業は、名板の雑巾がけと名板のついた樹木の過去の記録との照合、名板を取付けている針金のゆとりの状態などを確認して対処するものでした。記録している樹木が見つからないもの、木が茂って名板が見えづらいもの、道路から遠くて名板の文字が見えづらいもの、針金に余裕がなくて近々幹に食い込みそうなものなどの対処が必要と思われるものがありました。

これらについては次のように対処しました。記録の樹木が見つからないものは近くに同じ種類の樹木があれば名板を取付けて変更を記録、なければ記録から削除。名板が見えにくくなっていたものは、見えやすい位置に付替え。針金がきついものは、緩める事やゆとりを持たせて付替え。道路から遠いものは、撤去。

名板を新たに取付ける作業では、樹木に詳しいお二人(北野会員と山本(昌)会員)に選定をお願いして、うぐいす歩道は山本

(昌)会員に担当して頂きました。うぐいす歩道側では5本の樹木が選定され、4本は予備の名板があったので取付け、1本は名板を新たに作って秋に取り付けることとなりました。あせび歩道側では、13本選定して8本は予備の名板取付け、残り5本は秋に取付けとなりました。

【作業実施状況】

◇あせび歩道～もみじ歩道の班◇





◇うぐいす歩道の班◇



うぐいす歩道は車の往来が多く、「車が来ま一す」の掛け声がかかると、道端に避け、特に車体の大きなマイクロバスなどの通過は作業の中断を余儀なくされました。

もみじ谷で作業が終了し、集合場所の藤の棚公園に到着してしばらくすると、もみじ歩道側の作業班が到着し、全員で集合写真を撮って、解散しました。各班共に2km弱の行程を3時間ほどかけて作業しました。皆様、お疲れさまでした。また、事前の作業道具の準備や事後の記録などの更新・整理など、会長や部会長、関係幹事の皆様は作業が多くあり、大変だと思います。感謝いたします。

(文：森 写真：岩崎・河野)



【作業後の集合写真】

自主観察会(2)

杉之浦旧道～世界遺産貢献の森林

公募観察会下見

日 時：5月21日(土)

場 所：杉之浦旧道

～世界文化遺産貢献の森林

天候：晴れ

行事推進員：中道 舛田

参加社：猪谷 小川 北野 河野 小林(勗)

小林(み) 佐藤 末原 中道 福岡

二神 穂井田 舛田 元広 森

山本(昌) 横路 呼坂 以上18名

5月28日の公募観察会の下見を実施。旧陸軍道路から危険な箇所を確認する。自然観察の講師をされる山本(昌)会員と北野会員は樹木等のチェックをしながら歩く。貢献の森では急傾斜が多いので説明場所を決める必要がある。小なきりで多少のゴミ拾いをして終了しました。



(文：小林(勗) 写真：河野)

公募観察会①

杉之浦旧道～

世界文化遺産貢献の森林

日 時：5月28日(土)

場 所：杉之浦旧道

～世界文化遺産貢献の森林

天候：晴れ

行事推進員：中道、舛田

出席者：猪谷 岩崎 大西 小川 北野 河野

小林(勗) 佐渡 末原 中道 福岡

穂井田 増田 舛田 三戸 元広 森

山本(昌) 横路 以上19名

環境省 大高下 (AR)

公募一般参加者 22名

コロナ禍で延期となっていた『宮島再発見！「世界文化遺産貢献の森林」檜皮の森林』を3年ぶりに開催することができました。一般参加者22名、会員19名、環境省1名総勢42名の公募観察会です。受付で体温測定や手の消毒を済ませ、丁寧に作られた資料も配布されました。



9:45 藤の棚下で開会。天気も良く今日は観察日和です。

今日のコースは、旧陸軍省道路を歩きながら散策～檜皮の森林～旧杉之浦公民館周辺で昼食～小なきり海岸です。

10:15 軍用道路入口の新町で道路設置の経緯、管理について説明がありました。

観察会のいいところは、説明付きであること。資料を見ながらその時代に思いを馳せることができます。

ここからは2班に分かれて植物観察をしながら散策です。



北野班

木陰の下、オガタマノキ（和名は招霊木）、下向きに小さな白い花をたくさんつけているネジキ、モミとカヤの違い、ヤブニッケイやよく似ているイヌガシ、ミミズバイの青い実、有毒のシキミ、冬の小さな赤い実を思い描きながらタマミズキ、秋には見事に紅葉するハゼノキやウリハダカエデ、若葉は下向きのシロダモ、ハマクサギも薄黄色の花が満開などなど、それぞれ気になる場所で足を止めながら質問や解説を聞きます。



山本班



ハコネウツギの花



ハマクサギの花

11:05 ゆっくりの歩みとはいえ水分補給は大切、談笑しながら休憩です。

11:25 「檜皮の森林」見学。リュックは手前の公園に置いて身軽な格好で森林へ。明治33年(1900)に植えられたヒノキ林、それから120年。急斜面を足元に気を付けながら登っていきます。静かなひんやりした木立の中で檜皮採取の方法や檜皮葺き、原皮師（もとかわし）の説明を聞きます。ここ宮島では平成16年(2004)からこれまでに3回採取され、今後の予定は令和14年(2032)頃とのこと。



皮が剥がれた赤い木肌を見ながら、限られた資源を有効利用し、自然を破壊しつくさない、共生する日本文化を学びます。そしてその高い技術と、それを継承していく難しさを間近で感じた貢献の森林でした。自然を大切にする心を忘れないようにしたいものです、次世代に引き継ぐためにも。戻った公園で、コマユミのハマクサギ（鹿が背丈まで採食し下葉がない）や落ちていたムクロジ

の黒い実（羽根つきの玉）など観察しました。

12:10 杉之浦で記念写真、その後みなさん思い思いの場所で昼食です。

水が引いた水路やその上の電線で、野鳥たちが私たちが気にすることなく過ごしています。

13:10 小なきり海岸でハンゲショウの群落を観察。

夏至から10日後の7月初めに花や白くなる葉の見ごろを迎えるのですが、今日はまだ早く、出始めたとても小さな花穂をひとつ見つけただけでした。

ハンゲショウの葉・・・虫を呼ぶために白くなるらしい、花が終わると再び緑に戻る・・・ぜひ再度訪問を！



その後海岸で清掃活動。参加者の皆さんも熱心にゴミを集めてくださいました。



14:00 宮島栈橋の藤の棚下で閉会。アンケートを書いていたっている間、万歩計を見ると10,000歩を超えていました。皆さんお疲れさまでした。

“宮島再発見！”今の季節の樹木の様子や花たちに出会い、目的であった檜皮についての知識を学ぶことができました。

準備および解説をいただいたリーダーの方々に、会員の協力により救急箱のお世話になることもなく無事終了できたこと、心地よい疲れを感じた初夏の一日に感謝しています。



(文：舩田 写真：河野)

【確認された野鳥】

(情報・写真提供・)

大西会員、穂井田会員、元広会員)

セグロセキレイ、ハクセキレイ、ツバメ、コシアカツバメ、ウグイス、ダイサギ、アオゲラ、カワラヒワ、ミサゴ、ホトトギス、イソヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ、ヒガラ、キビタキ、コチドリ、ハシブトガラス、スズメ、トビ、アオサギ、ヒヨドリ

団体で歩きながらこれほどの数を観察できて、しかも昼食中の河原でもじっくり様子を見たのは嬉しいことでした

(コメント大西会員)



コチドリ



ツバメ



カワラヒワの水浴び



カワラヒワの水浴び とスズメ



コシアカツバメ

◇アンケート

・自然に興味があり、体を動かしたい。良かった、11/26参加予定。(80代男性)

・自然観察に興味があり、体の運動にもなるから。よく理解できた。今後も自然観察会などやって欲しい。(80代男性)

・植物に興味がある。(80代女性)

・歩くこと、アウトドア、人と話す、自然に興味。詳しく説明してもらいました。テキストも充分でした。(70代女性)

宮島の自然と歴史に興味があり、歩く時間も自分に合っていたから。自分の知らないところがあり大変良かったです。

(70代女性)

・植物に興味。ハンゲショウの季節であればもっと良かったと思う。テキストは良かった。(70代女性)

・自然や歴史に興味があり、体を動かしたい。(70代女性)

・友達に誘われたから。良かった。一生懸命説明してもらって良く分かった。

(70代女性)

- ・自然に興味がある。花、木、色々教えていただき興味を持ちました。テキストが沢山準備されていてうれしかったです。サポーターの方が沢山出てくださって感謝。機会があればまた参加したいです。清掃も良いですね。

(70代女性)

- ・自然に興味があり、歴史を知りたい。全部良かったです。特に貢献の森林には初めて行って感動。講師は宮島愛にあふれている。テキストは具体的で詳しい。宮島話が聞けるのが楽しい。11/26是非参加したい。

(70代女性)

- ・宮島の歴史や自然について興味。説明が分かり易く自然に対する心がまえを知りました。ゆっくりで良かった。(70代女性)

- ・植物、野鳥、歴史に興味がある。

(70代女性)

- ・自然に興味があり体を動かしたい。

(70代女性)

- ・植物、歴史に興味。適度な運動量でよかった。(60代男性)

- ・歴史に興味がある。内容が良かった。歴史で合戦等の話を聞きたい。(60代男性)

- ・植物に興味。質問しやすく楽しく観察できました。(60代女性)

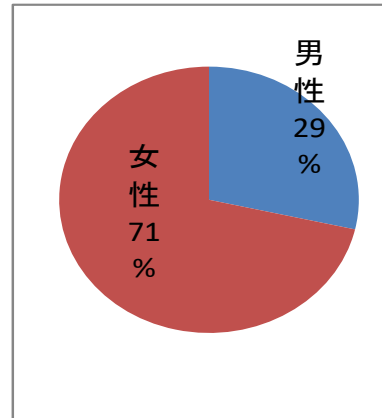
- ・自然に興味あり。分かり易い話し方で良かったです。(60代女性)

- ・妻に誘われたから。講師の話が楽しかった。(50代男性)

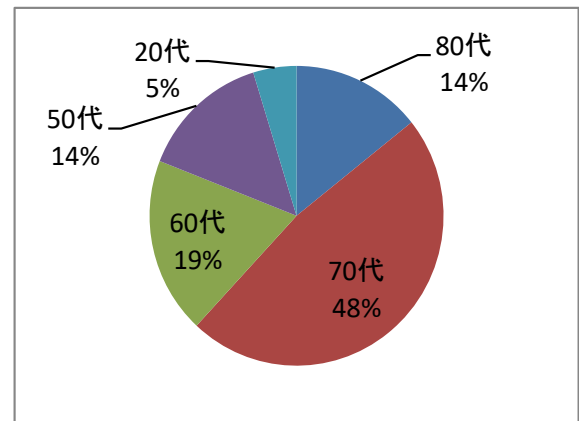
- ・地理と自然の研修に興味があった。各分野のキュレーターボランティアがいて実りの多いフィールドワークでした。歴史・海・鳥や木に特化したフィールドワークがあればいい。(50代女性)

- ・貢献の森林、宮島の自然や歴史に興味がある。グループ内で植物、歴史、生物と各パートの担当をされ、各パートで時間を取られるのもいい。(50代女性)

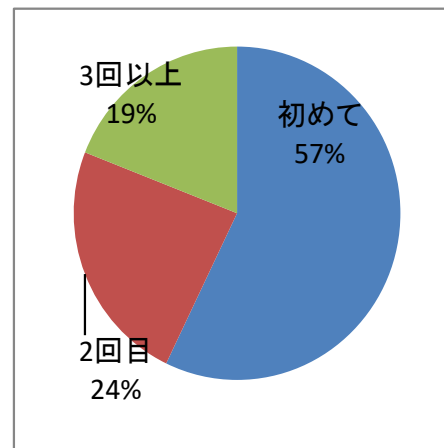
- ・宮島の理解を深めるため。見所が奥地にあんなにあるとは思わず、でした。全体的に分かり易かったです。詳しいガイドでとても良かったです。(20代女性)



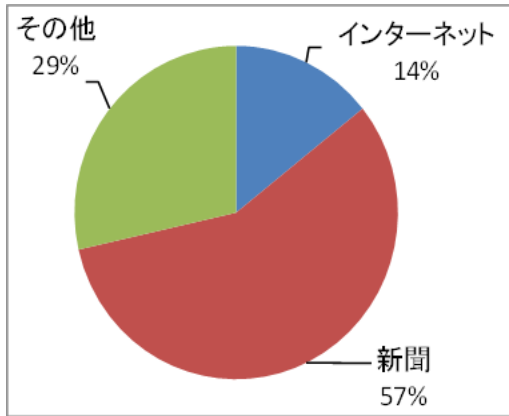
参加者の性別



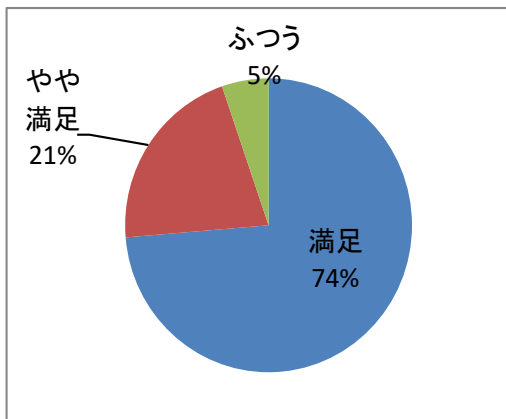
参加者の年代



観察会参加回数



行事を知ったのは



行事の感想

(まとめ 舛田)

PV 会員交流会 (広島市植物公園)

日 時：6月11日(土)

場 所：広島市植物公園

天候：雨

行事推進員：二神

出席者：岩崎 小川 金山 北野 河野 末原
中道 増田 舛田 村上(慎) 村上(光)
元広 山本(昌) 横路 以上14名

入梅間近と思われる小雨の中の6月11日(土)、広島市植物公園ボランティアガイド

の方々との会員交流会が山本会員の案内の元行われた。初夏の緑に映える「ヤマボウシ」の白い花が鮮やかである。

『花の進化園』コースの水草類の中のハンゲショウの根元にシュレーゲルアオガエルの白い泡状の卵塊が見られた。参加者から「オタマジャクシは？」の声も聞こえる。大賀蓮(古代ハス)の水槽や白い花の浮かぶ睡蓮の水槽もある。植物は太古の時代の水中から陸上の単子葉・双子葉の草本へと進化して来たと言われる。ヤマグルマの木も、その構造から樹木の進化の過程が読み取れると言う。麦の種類のコナーでは、ウクライナ情勢の深刻化から生じている世界の食糧危機の問題、小麦の種類から穀物についても考える。



『ロックガーデン』のコマクサやエーデルワイスなどの高山植物、希少種のキレンゲシヨウマヤクリンソウなどの生息環境を広島の地で保つ為に施している土壌や寒冷紗など、植物公園の方々の苦労を垣間見る。

『日本庭園での菖蒲園』には、江戸時代から藩士や庶民によって鑑賞のために改良されてきたハナショウブが展示されていた。江戸タイプ、肥後タイプ、伊勢タイプ、長井タイプとあるが、「菖翁花」は、江戸古花と言われる現在残っているとされる20種の内18種が展示されていた。

『アジサイ園』では、外国で改良された品種を含め色とりどりの「園芸アジサイ」が咲き競っていた。

その谷間に続く、樹木が茂り深山の雰囲気漂う道の両側には、日本各県を代表する「ヤマアジサイ」が見ごろであった。梅雨の時節に似合う花々である。



里山の風景の坂道を公園ボランティアの説明を聞きながら登る。コウヤマキやツガなどの針葉樹、ミミズバイやスダジイ、ヤマモモ、ソヨゴなどの常緑広葉樹、ネジキやブナ、カシワなどの落葉樹。常緑広葉樹類は宮島でもなじみのものも多いが、宮島に生息する樹木の種類の多さをも再認識しました。ボランティアの説明で樹木と農村での生活との関わりなども聞けて心の和む思いであった。植物公園ボランティアの方々に感謝いたします。

午後は、金山会員と北野会員の指導による「ネイチャーゲーム」を行った。両会員は植物公園ボランティアでもある。ゲームの題名は『「キャンパス」はCDケース』。自分の心情を植物の花や葉っぱを用いてアート作品に仕上げ、人前で発表すること。



40分の時間内での制作作業で、最初は題名を決める事に苦心したが、作業を進めるうちに観点が決まってきた作品を仕上げる事が出来た。20分間の発表会での各参加者のテーマは、趣味・人生観・身近な生活・風景・興味の有る事など個性が溢れていました。和やかな中、審査によって次の3名が入賞されました。

「日々是好日」(村上光春)、

「目指せ百名山」(岩崎義一)、

「可愛い3人の孫」(舛田祐子)



(文：横路 写真：河野)

入浜池補足調査①

日 時：6月18日(土)

場 所：入浜池

天候：晴れ

行事推進員：大西 小川 小林(み) 穂井田
松田 横路

出席者：大西 小川 小林(勲) 福岡 穂井田
松田 元広 山本(昌) 以上8名

【水質調査】 横路 晃

ヒトモトススキの鹿の食害が始まって、
入浜池の周辺の風景が一変しています。



入浜池の定期観測の今年度補足調査「第1回」を行いました。水質調査としては、従来と同じ方法で調査しました。

測定点の「中央」、C'、D点付近はやや湿っているものの陸地化となっていて採水が出来なかったため、標識から7cm～5m付近で採水しました。C点は乾燥して陸地化となっているので測定できませんでした。測定結果は次の表の通りです。

| 令和4.6.18(土) | 満潮 (01時16分) | | | | 干潮 (18時37分) | | | |
|-------------|----------------------|-------|-------|-------|-------------|----------|-------|-------|
| 測 定 | 356cm | | | | 24cm | | | |
| 調査時刻 | 9:45 | 10:45 | 10:00 | 10:05 | 10:15 | 10:22 | 10:30 | 11:00 |
| 測定地点 | A | B | 中央 | C' | D | E | F | 海水 |
| 水位 (cm) | -16 | -15 | - | - | - | -17 | -19 | - |
| 塩分濃度(%) | 2.5 | 2.61 | 2.16 | 1.15 | 1.09 | 2.6 | 2.86 | 2.8 |
| P H | -5.6 | -5.7 | -5.6 | -5.7 | -5.6 | -5.6 | -5.7 | -5.6 |
| COD | 2 | 4 | 2 | 4 | 8以上 | 2 | 2 | - |
| 池水の | 10時30分に測定 | | | | 山水の | 10ℓのパケツが | | |
| 流出状況 | ※川の(幅)90cm × (深さ)7cm | | | | 流水量 | 満水になる時間 | | |
| (F地点) | (長さ)1m間に要する時間=35秒 | | | | | 16秒 | | |

今回は満潮の潮位が、測定日前の5日間連続で370～388cmと高く、海水の流入が連日続いて有ったものと思われます。前日までの降雨量が少なかった事も合わせて、各測定値にその影響が強く現れています。

塩分濃度は、A,B「中央」、E、F点で海水と同程度になっています。C'、D点の付近で1%程度に下がっているのは、付近の池底からの湧水の影響と思われます。

水位は、B点で-15cmと低目ですが池の流入/出口のF点で僅かですが水の流出しているのが確認され、塩分濃度が海水と同程度であるところから、昨日から今日にかけての満潮時に流入した海水が流出中と思われます。PHは、測定器の不調により低い値となっています。

CODは、D点で8以上となっていますが付近に、イノシシのヌタ場状のくぼ地がある為だと思えます。部分的に池の水面に油膜状の浮遊物が見られますが、CODの値には現れていません。

今後の適度の降水による入浜池の水位の増が望まれます。



(参考) F点での池水の流出状況

【植物観察】 山本昌生

6月3日に入浜のヒトモトススキの現況を、植生調査に詳しい広島市植物公園の山本晃弘さんを招いて、小林会員、横路会員、北野会員と私の5人で調査しました。以前に比べて、水位が下がっていて乾燥していること、ヒトモトススキの数が減り、成長がよろしくないことが確認できました。また、次世代である実生をいくつか確認できたため、その成長を追跡調査する目的で、条件が異なる5ポイントの調査区を設定しました。各ポイントで25cm角のマス目の中のヒトモトススキの実生の数と草丈を記録しました。各ポイントには、目印として自然木の杭と長い木ねじを四隅に固定しました。

6月18日の補足調査では、6月3日に設定した調査区を探すところからスタートしましたが、記憶がすでにあいまいになっていて、探すことに随分苦労しましたが、小川さんと福岡さんの協力により何とかすべてを確認でき、各調査区のヒトモトススキの生育を調査しました。また、次回も調査区がわかりにくいことが予想されるため、新しく園芸用の支柱を立て、養生テープに番号をつけてわかりやすくしました(写真1)。



写真1. 新しくつけた園芸用支柱と番号

調査の結果、前回よりも実生の数がすべての調査区で減少していて、さらにシカによる食害の跡も確認できました(写真2、表)。



写真2. 先端を食害されたヒトモトススキの実生

表. ヒトモトススキの実生数の変化

| 調査区 | 6月3日 | 6月18日 |
|-----|------|-------|
| 1 | 18 | 14 |
| 2 | 12 | 3 |
| 3 | 14 | 6 |
| 4 | 20 | 10 |
| 5 | 13 | 11 |

減少の原因ははっきりしませんが、前回よりも水位が高くなり、6月3日の時点ではやや乾燥していた調査区も湿潤していました。小さな実生は、環境の変化やシカによる食害に弱かったのかもしれませんが。今後も経過観察を行い、ヒトモトススキの生育に関する情報が得られればと思います。

また、シカが食べやすい位置にあるヒトモトススキの食害は継続されていますが、シカがあまり食べないとされるベニバナボロギクがかなり繁殖していて、ハスノハカズラも増えているように感じました(写真3)。



写真3. シカの手前、左にベニバナボロギク、右にハスノハカズラ

【野鳥観察】 元広 修爾

調査日は、2022年6月18日（土）でした。よく晴れていましたが、風はほとんどなく、蒸し暑い日でした。大西会員、穂井田会員、私の3名で調査を行いました。

まず、大西会員が、ミサゴが山地の森で営巣しているのを発見しました。一羽は巣に座っていて、一羽は、枯れ木の先に留まって、しっかりと見張り番をしていました。

次に、穂井田会員と入浜の東部の平地の林の中を歩きました。ウグイスが美しい声で鳴いていました。林を抜けた後、エナガの群れに出会いました。中木の茂った枝に、10羽が群れていました。とても華やかな感じを受けました。エナガたちは、チチッと鳴きながら、羽音をたてて枝から枝へ飛び移ったり、イモムシを食べてみたり、逆さまに留まってみたりと、とても可愛らしかったです。穂井田会員によると、羽毛がモフモフしているので、このエナガたちは雛だねということでした。少し時間が経ってから、メジロが一羽やってきて枝に留まりました。その場がさらに華やかになりました。

入浜の西部の平地の林では、キビタキに出会いました。姿は見えませんが、とても美しい声なので、大西会員、穂井田会員とともに、ええね〜と聞き惚れてしまいました。

ミサゴ、エナガ、キビタキに出会えたことは、私にとって、夏の大切な思い出になりました。

最後に、大西会員が電柱の一部を利用して営巣し、子育てをしているスズメを発見しました。

全体としては、次表のとおり 23 種の野鳥たちに出会うことができました。

◇入浜 野鳥定点調査

2022年6月18日晴れ 9:30~11:30

| 種名 | 数 | 種名 | 数 |
|---------|----|---------|------|
| カルガモ | 2 | ヒヨドリ | 3 |
| キジバト | 2 | メジロ | 1 |
| カワウ | 1 | ウグイス | 3 |
| ゴイサギ | 1 | エナガ | 10 |
| ダイサギ | 1 | キビタキ | 3 |
| コサギ | 1 | スズメ | 7 |
| ミサゴ | 5 | セグロセキレイ | 1 |
| トビ | 6 | カワラヒワ | 4 |
| コゲラ | 1 | イカル | 1 |
| ハシボソガラス | 4 | ホオジロ | 2 |
| ハシブトガラス | 3 | | |
| ヤマガラ | 3 | | |
| シジュウカラ | 4 | | 計23種 |
| 季節区分 | 冬鳥 | 夏鳥 | 留鳥 |

季節区分は、『ひろしま野鳥図鑑』（2002年日本野鳥の会広島県支部(編)中国新聞社刊)による。



6.18 穂井田会員撮影 エナガ



6.18 大西会員撮影 スズメの子育て

環境省研修会 歴史(厳島神社)

日 時 : 7 月 2 日 (土) 9:00~12:00

場 所 : etto 宮島交流館、大鳥居

天 候 : 晴れ

行事推進員 : 中道、舛田

出席者 : 麻生 猪谷 岩崎 大西 大林 小川
金山 北野 河野 小林(颯) 小林(み) 佐渡
末原 種本 兎谷 中道 福岡 二神 穂井田 増
田 舛田 松尾 松田 三戸 村上(慎) 村上
(光) 元広 森 山本(昌) 横路 吉賀

以上 31 名

環境省 藤重自然保護官 永瀬自然保護官
大高下 (AR)

講師 : 厳島神社 技師 原島 誠氏

今回のテーマは、国立公園でも特に自然が文化・歴史と融合していることが象徴的な厳島神社。4年にわたる大規模な保存修理工事を直接担当する厳島神社の技師の方からの講演に加え、特別に現地の素屋根の中まで特別に見学させていただくとても貴重な機会でした。

大鳥居の構造やこれまでの歴史、この度の修理等の経緯等から、厳しい自然環境に耐えつつ、その時々に関係者の新しい工夫によって、ようやく海上に存在し続けてきた稀有な存在であることを知ることができました。

◇講演

- ・紀行作家シドモアの資料からわかる明治期の
大鳥居の状況
- ・大鳥居の構造や材料、修繕箇所からわかる
過酷な海上環境への適応
- ・修理の度ごとにいろいろと分かってきた歴史
(大鳥居の中に収められた石についての
言い伝え等)
- ・修理の際にも安全性や公開や啓もう活動を
大切にしている事
- ・伝統的な職人さんの技だけでなく、新しい
知見も取り入れた工事内容 等々・・・

個人的には、シロアリや海虫(キクイムシ
類・フナクイムシ)への対応は厄介で、材料

の段階からずっと柱根元の交換や鉄筋コンクリートを使っても、すでに「満身創痍」の状況であったことや、科学的な構造計算やスーパーステンレス、炭素繊維などの新しい材料や研究者の方々の知見も多く取り入れられている点に、大変感銘を受けました。



◇現地見学

現地では、仮設の栈橋を渡り、ヘルメットを借りて、素屋根の中の足場を大鳥居の最上部まで見学させていただきました。講演の内容を思い出しながら真近で拝見すると、職人さんの技と最新の技術が大鳥居を守っている様子がよくわかりました。また、檜皮や朱塗りの真新しい状況を、一足早く目にすることができました。

また、扁額に漆を塗装している様子も見学させていただきました。解散前には神職の方にもご挨拶をいただき、今後の活動に、この貴重な機会を生かしたいとつくづく感じ入りました。





2022年度 環境省研修会「大鳥居修理工事見学」

2022年7月2日(土) 西の松原(石灯籠)にて

(文 : 松尾 写真 : 河野)

自主観察会(3) 干潟観察公募観察会下見

日 時 : 7月15日(金)

参加者 : 猪谷 金山 北野 河野

小林(勗) 小林(み) 末原 穂井田

松田 元広 森 呼坂 以上12名



(写真 : 河野)

包ヶ浦海岸清掃(午前)、 焼肉懇親会

包ヶ浦海岸清掃

日 時 : 7月23日(土) 9:30~11:30 晴れ

場 所 : 包ヶ浦海岸

行事推進員 : 種本 長村

参加者 : 岩崎 大西 恩田 河野 小林(勗)

小林(み) 佐藤 末原 種本 兎谷 長村 福岡

穂井田 増田 舛田 村上(慎) 元広 森 吉賀

以上19名

9時に宮島について、タクシーを待って3人で乗っていきました。包ヶ浦にはもうみんな集まっていました。私が出席を取る番でした。ちょっと緊張しました。挨拶がすんで、道具を手分けして持って、人が泳いでいない一番東の浜に行きました。

まずは拾ったほうがいいと思って、火ばさみとごみ袋を持ちました。すぐにペットボトル数個とざる一個をゲット。 カキ養殖用パ

イブは1センチくらいのはずっと取れます。たまに10センチ20センチクラスを見つけると「よっしゃー！」という気持ちになります。結構大物が取れました。

途中、一度休憩しました。今日はよい天気、暑い。海から風が来て、時々雲で日差しがさえぎられるのがありがたいです。今年は白い塊みたいなものがたくさん打ち上げられていました。プラスチックかと思ったけど海の生物らしいと分かってきて取るのはやめました。去年一面満開だった紫の花（ハマゴウ）は、まだつぼみでした。

はじめは、ごみがたくさん取れて喜んでいただけ、しばらくしたら、「重っ!」。そして最後には、火ばさみを挟むときに使う筋肉も痛くなりました。でも家にいたら絶対に味わえないことばかりなので、来れてよかったです。

浜がきれいになりました。ごみは、袋7個分くらいはあったと思います。また来年もしたいです。



(文：長村 写真：河野)

焼肉懇親会

12時前に、山ぎわの炊事場近くに移動したら、火は起きていて、材料は切っており、焼くだけとなっていました。

炭火で焼くのが香ばしくてすごく美味しかったので、たくさん食べました。差し入れのきゅうりの漬物と、枝豆も食べました。

食べながら、いろんな話をききました。食材の入手は、昨年まで会員の島さんだそうです。今、蚊が出てこないのは、暑すぎるからとか、奈良のシカは毛並みが悪くて太っているとかいう話が面白かったです。



(文：長村 写真：河野)

***** 投稿 *****

俳句 大林 實

神の島町家通りを夏燕なつばめ
 大聖院香炉の灰の梅雨湿り
 神の島蛇口の水を飲む小鹿
 砲台は明治の遺構落とし角
 建具なき千畳閣の涼しさよ

◇ 編集後記 ◇

ひさびさの活動参加は環境省研修会。大規模修理中の大鳥居の上まで登り、きれいに張られた檜皮葺きに匠の技を感じて感激！思い出に残る一日になりました。

(麻生)

瀬戸内海国立公園
 宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
 環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6番30号
 広島合同庁舎 3号館 1階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455